

有終、暮めし仕るを指って伊豆へ逃れ、こゝろま  
 して、七日に帰宅。ゆゑ、残とり速記の原稿とお見し  
 ました。私のあつ時の後、一振りが悪くて、到底速記など  
 には乗るまいと、防め心配してありましたが、果しては迷  
 惑をわけましたやうで、あれではデジメ表出来るもの  
 ではありません。ふ、實の誤ばかりでなく、私の趣旨が隠り  
 傳へられる危険が多く、その一、体を成してありません。四非  
 は悉く私にあり、私のしやうり方のあつさにあります。  
 さむら困りになつたこととお察します。で、あれは概ね的  
 に書き改めるより外ありませんが、目下字々年書を控へ、  
 雑多な仕るを抱へてありまして、(且つ、老眼を少し  
 いちめてありますので) 月おまゐにそれを果すことはむ  
 づかしいやうと存じます。誠に極すみませんが、今度  
 の「防め」めは、ゆ省きうけひなう存じます。  
 目下味ともやう用とあれば、次号に少し体を成した  
 ものを執筆させて頂きます。何分にもあれは人前へ

出せません。山や空にばかりくらくらなり下まい、  
 こゝろはどなたのせおてもなく、私の業り力の不備に  
 よるもので、ゆ控をするより外ありません。

一月十三年

林 正 耕 三

山安部 宙之介 様

世田谷区 松原所  
 四ノ一四〇

林 正 耕 三

一月十三年